

山の組

徳久孝子



豫定

月曜日 金蓮花の手入れ

齒の治療（一部分の人）

遊戯 チルドレンボルカを新しくする

自由畫、寫生 本校に行きニコライ堂を描く

火曜日 切紙（觀察）雛芥子の花

唱歌 牧場の羊

午後 自動車製作の續き

水曜日 自動車の色塗り

クツシヨン製作、クレオン染

お話 芥子粒夫人

木曜日 牧場の羊製作（色塗り）

遊戯 チルドレンボルカ

金曜日 海軍記念日

黑板に海の畫を描く

軍艦製作（粘土で作る）

土曜日 牧場の羊製作の續き（切り抜いて臺紙につけ、

柵や花を切つて立てる）

お話（實習生）

五月二十三日（月）

五月にしては少し蒸し暑い日であつた。

朝グラジオラスと鐵砲百合の花をお室の花瓶にさす。昨

日一日の間にお庭の椎の木の葉が一ぱい落ちてしまつたので

早く来た四五人と一緒にお庭掃除をはじめ。子供達は自

分の背よりも高い竹箒を扱ひにく相にしながらも一生懸命

に掃き集める。忽ち彼處、此處に木の葉の山が出来る。其

の時藤棚の下の所に大きな蚯蚓が一匹「あッ、蚯蚓だ〜」

「龜さんにやらうよ」「うん、それがいい」と男の連中は

大喜び、早速棒の先に引掛けて林の組の龜さんに持つて行く、後から箒をかついだお供がぞろぞろ。暫くして歸つて来たが龜さんはお腹がよいのかなか／＼喰べないと如何にも不満相。庭掃除の方は實習科の方にお願ひして金蓮花の手入れをする。四月二十一日にめい／＼二粒づつ蒔いた金蓮花が一人残らず二本づつ芽が出て、今は五寸位になつた。蒔いた翌日の朝先づ第一に「もう芽が出た」と聞いて居た

が今はお花の咲くのを待ち焦れて居る。まだ一鉢に二本生えて居る方があつたので、土を篩つたり、お砂を運んでまぜたり、鉢の穴に丁度よい石を見つけたりしてやつと移植する。それから各々の鉢の雑草を抜く、「先生これ抜いていゝの」「この圓い葉も」と一々聞くのでなか／＼忙しい。松葉牡丹も、もう樂に雑草が抜ける程大きくなつた。「先生なぜ此の草抜いてしまふの」と此の頃めつきり質問を仕切めた東吾さんの間にはすかさず榮一さんが「僕知つてら、これ抜かないと金蓮花が大きくならないんだよ、僕んちのお父さんも菊をこうするよ」と説明して居た。丁度園藝の先生がお見えになつたのもう肥料をやつては如何かと御相談する。「もうよろしい」との事に早速バケツと柄杓を持

つて油槽を戴きに裏庭に行く。油槽を汲む時、「汚いね、あつ臭い」と鼻をつまみ出したので「あら汚くないのですよこれはね皆さんの母様が頭へお付けになる油の槽ですもの」と先生が教へて下さる。「そう、ぢや臭いだけで汚くないのね」「え、そうです共」これを水で薄めて葉に掛けない様に、多過ぎない様に、と注意して一人づつ自分の鉢に掛ける。

遊戯 出して引込めて、飛行機、大工さん、ものまね、アイシュー、チルドレンボルカ（以上律動的）、曲り角、お馬のけいこ、（以上表情）スキップ。

今日は元氣な裕さんが居ないので一體に何だか元氣が無い。ものまねは今日がリーダーになり、郵便屋さんお父さん、蛙など題を出して見る。郵便屋とお父さんのものまねは少し困つた様。チルドレンボルカを新にして見る。小さい組の時に大きい組のなさるのを見て居たので直ぐに出來た。スキップは三人づつでして見る。三人が氣持を合せ足を合せて揃へるのはなか／＼むづかしい。

寫生 終つてから各自帖面とクレオンを持ち正門前へ寫生に出掛ける。途中花壇には雛芥子、紫蘭、花菱草、三色

重等色とり／＼咲き亂れて居た。母畑には母も赤く熟れて居て、皆羨し相に「あっこにも」「こにも」と赤いのを探す。正門前のクローバーが青い毛氈を敷きつめた様になつて居るので、其の上に坐つてニコライ堂の寫生をする。「僕ニコライ堂いやだなあ、自動車でいゝ？」と相變らずTさんは顔を擧げて言つて来る。皆落着いて、水色に黒色にクレオンを帖面に走らせて居る時、誰か「あらッ、雨よ」と云ふ。本當に雨だ。ポツリ／＼と雨は益す／＼降り出して來たので、残念ながら中止して馳け足で幼稚園に歸る。

お買物 お食後、和雄、よしこ、東吾、孝の四人は實習生二人に連れられて、自動車のドアを付ける蝶番及ハンドルを買ひに金物屋に出掛ける。「行つて参ります」と如何にも嬉し相。他の子供は砂場で遊びながら、お使の方の歸りを待つた。

五月二十四日（火）

早く來た和雄さんと一緒に、花壇の雛芥子の花を切りに行く。今日切紙にしたいと思つて。咲き揃つた眞紅の花が

すが／＼しい五月の風にゆれて居る。鋏を持つたまゝ、じつと眺めて居ると和雄さんが「先生芥子の花眞赤だね——風にゆれて落ち相だねえ」と言つた。立派な詩だと思ふ。

お室のコップに罌粟の花をさして、早く來た方から切り紙を始める。赤黄緑茶等の色紙を入れた箱と、屑紙を入れる罌の形をした箱をお机の中央に置き、自由に入用の紙を取つて切る。誰れも／＼先づ赤い紙を取つて花を切り、次に莖、葉といふ様に切つて行く、切り込んだ比較的細い葉がかなりむづかしいらしく色々と工夫をして切つて居る。切れた方は一人で糊を付けてお帖面に貼り、今日の日附及びヒナゲシと字を書いた。誠さんは珍らしくお花を四つも切り黙々と一生懸命に作つて居た。睦子さん、東吾さんはどうしたのか何枚か切つても自分に満足した花の形が出来ないと見えて、机の上を赤い紙だらけにして居た。邦子さん榮一さんは、いつもながら花も葉も細い所までよく観察して作つて居た。

自動車のドアの蝶番ひを昨日買つて來ていたといたので螺旋廻しで付けたら、どうやら形らしくなつた。子供達の喜び方は非常なもので、朝から入れ代り立ち代り乗つて居

る。小さい組の方もお客に見える。

「どちらまで参りますか」「滿洲まで願ひます」と林の組の豪傑五郎さんも澄して乗つて居る。「ハイ、かしこまりましたブーウ〜」一種特別の聲を出してブーウ〜言つて居る。まだハンドルも付かず、白木の自動車でもこんな喜んで呉れるかと涙ぐましくなる。

早くライトもハンドルも作り度いと思ふ。孝さんは近くに自動車屋さんがあるとの事でなか〜よく知つて居る。運轉臺から一寸首を出して、

「如何です、お乗りになりませんか」

「百哩いくらで行く」と榮一さん、

「そうですね、いゝです四十錢で行きませう」

「ぢや頼むよ」と榮一さんが乗り込む、都會の子供はもう値切つて乗る事を知つて居るのに驚かされる。

思へば此の自動車もよくこゝまで來たものだ。子供が自由に乗つて、遊べる様にと思つて木で作りはじめたのは此の學期の初めであつた。設計をしてさて取りかゝつて見ると思はぬ所で板の厚さを考へずにして合はなかつたり、板が割れたり、一時はあまりにも望が大き過ぎて到底自分達の

手に負へる事ではないかとさへ思つた。然し折角始めたのだからやり通そうと頑張つて此處まで來ただけに、喜びは子供は勿論、私達まで非常に大きい。三輪車用の大きい車を二個づつ前後に付けてそれ以太い心棒を四本縦に入れ、長さ六尺五寸、巾三尺五寸、高さ箱だけ約三尺三寸の大きさにした。定員五人位の積りであつたが子供は八人位乗つて居る。

蔭棚のあの美しい緑に誘はれて今日も亦蔭棚の下でお辨當を頂く事にする。皆大喜びで蔭蔭。お盆。お含嗽道具。楊子掛等を外に運び、四枚程蔭蔭を敷いて其の上に圓く坐つて御辨當を頂く。見さんはお父様の眞似とあぐらをかいて居た。時々遅れ咲きの藤の花が散つて皆を驚かせた。

食後も自動車遊びが続いて居た。私は其れを氣を付けながらそばでヘッドライトを作る。ブリキの空罐の大きいのを二つに切り、前の所は圓く切り抜いて内へ折り曲げ、自動車につく方は少し切り込みを入れてつぼめた。上へセルロイドの厚いのを硝子代りに張る。五六人の子供は「それ何になるの」と云ひながら一生懸命に見て居た。今日は牧場の羊の唱歌をする豫定であつたがあまりよく遊んで居

るのでそつとグリーンボールドに歌だけ書いておく、美喜子さん、睦子さんは、レコードで知つて居ると、唱つて居た。

五月二十五日（水）

昨日に引續き自動車は朝から満員續きである。殊に今日はよく動かせる位置に置きかへたので尙更大變、定員を六人といふ事にきめる。

自動車のクツションを作り度いと思つて皆で其の模様を考へる。描けたお帖面を見ると、チューリップ、櫻、玉、渦卷等が多くいつもの様な自動車、汽車等は一つも無い。模様といふものに、花が随分大きな位置を持つて居る事と思ふ。榮一さんのチューリップを交互に配置したもの、和盛さんの線と色だけで可成り濛い色取りを見せたもの、喜久子さんの水蓮等の中でもよいと思つた。季節柄でもあり喜久子さんの水蓮を書く事にして、昨日買つて來た布地を机の上に張り、女の方に二人づつ交代にクレオン染のユウゼンクレオンで書いて頂く。負け嫌ひのM子さんは一番先に一番先にと云ふのでジャンケンで番を決める。相にく一番

びりになつてしまつた。大いに不服らしい顔付きで「いゝわよ、びりだつて、上手な人は、後で書くのよ」と云て居た。クリーム色の地に、赤と黄の水蓮、緑の葉がよくうつた。今晚蒸して來る事をお約束する。

唱歌、昨日出來なかつたので折りを見て牧場の羊の歌をする。始め簡單に歌の説明をする。「先生は僕んち、盛岡に牧場があるよ」先生「そう、羊居るの」「うゝん、馬ばかりだよ、競馬にするの」「君乗つた事ある」「赤ちゃんの時行つたのだから、乗らなかつたの」「お話の終るのを待つて、今日は二番迄唱ひ後、雲雀（チイチャク）お馬のけいこ、自動車、チューリップを唱ふ、後二人づつで自動車を唱つた。つい先頃まで皆と一緒に坐るのもいやだつた誠ちゃん、今日は哲子さんと一緒に前へ出て唱つたので本當に嬉しかつた。お友達も「誠ちゃん偉くなつたね」と嬉し相。自動車の歌は、鐵砲玉の様にう行つちやつた」のもうと二拍引く所がどうも早くなり易い。

食後自動車の色塗りをする。自動車を外に持ち出して塗るつもりで居たが硝子戸がはずれないので止むを得ず中で塗る。下に莫塵を敷いて、カゼインのクリームに濃い緑の

ラツカーをませ合せて、それを小さい入れ物に少しづつつけて塗らせた。まだ塗料を溶かして居る頃から「僕に塗らしてね、僕にね」と大騒ぎ、エプロンに着けない様に又撥かさない様にと、十分注意して塗らせたが、塗り始めると皆夢中になつて、顔まで塗料だらけになつてしまふ。白木の自動車が見る／＼中にグリーンに塗られて行く。「まるでペンキ屋の様だね」と誰か言ふ。裕さんが「先生小さい組が知らないで乗るといけないから、ペンキ塗りたて、御注意」と書かうね」「そうね紐を張つて其の紙をつけて置きませう」裕さん、庸雄さん、昭雄さん等が半紙にペンキヌリ

タテゴチウイクダサイと書いて来たので紐をはつた所に糊でつけて置く。今日は外側だけ塗れた。「明日の朝迄に乾くかしら」と歸りのお支度をしながらしきりに心配して居た。明日乗れないとつまらないと見えて。

五月二十六日（木）

朝来て見ると自動車は殆ど乾いて居たがまだすつかりと云ふわけには行かない。午前中位此の儘にして置かなければなるまい。乾かないと言つたらさぞがつかかりするだらう

と考へて居るといつも早い國義さんが元氣よく「先生お早う、自動車乾いた」とお室にはいつて来た。

「まだ少し乾かないのよ」「ふん」とつまらな相な顔をして手でさわつて見て居た。次に来た榮一さんも「先生お早う」と言つてバスマットをお戸棚に入れると直ぐ自動車の所に來てさわつて見る。早く乾けばよいと私まで思ふ。自動車に乗れないので男の人達は兵隊ごつこを始める。長い積木を肩にして帽子を鐵胃の様に縁を下にさげて居る。此の頃目出つて勢力家になつた國義さんが大將で大きい裕、榮一、晃、昭雄さん等を一列に並べて「氣を付け」「前へ進め」と號令をかけ、トットトトットトと遊戯室の方に進軍して行つた。兵隊ごつこには這入らない誠、東吾、道夫さんと一緒に羊の騰寫してあるのを塗り初めた。牧場の羊の唱を其のまゝに、すつと柵がめぐらしてある。牧場の縁の草の所で羊が遊んで居て、中には草にまじつて眞紅な芥子を咬いて居る様な所を作つて見たいと思ふ。

お手本を作つて置いて見せると「これ作るのね、これ牧場の羊でせう」と言つて喜んで塗り初めた。いつもの塗り、畫と少し異つて縁のきわを薄く茶色で塗らせて見たが、薄

くといふ事は亦むづかしいらしい。線に添つて茶の鉛筆で又線を引いて居た人が大分あつた。兵隊ごつこの連中も一しきりたつと飽きたらしく、「僕もする」と塗り出した。塗れた方は一匹づつにお名前を書いて自分の御引出しに大事にしまつて置く、六匹の羊を塗つたので今日は切らずに塗るだけにした。

早く出来て海の組を御遊戯を拜見して居た哲子ちゃんか「先生御遊戯室があきましたよ。昨日も一昨日もしないんですもの」と鼻をならして来た。哲子さんはとても／＼お遊戯が好きで又得意、一度すると正確に覚えて如何にも楽し相に目を細くして居る。「そう、ぞや今日はしませうね、丁度塗り畫も全部済んだのでお遊戯を始めた。お遊戯の前に牧場の羊、雲雀のお唱歌を唱ふ。今日は試みに男の方と女の方を分けて二つの圓を作らせてして見た。男の方がふざけはしまいかと疑問を持つてして見たのにこれは意外兩方共にお互に比較して合つていつもの様にふざける人も一人もなくて實に愉快に出来た。兵隊、曲り角、ものまね、大工さん、チルドレンポルカ、飛行機、お馬のけいこ、お友達、ボートレースをする、暫くボートレースをしなかつ

たので喜んで汗のにじむ迄こいだ。

遊戯がすんでからお庭に出たが、朝からの風がかなり激しくなつて来て折角のお天氣に思ふ様に遊べないのが残念である。風の爲に藤の葉柄が澤山に落ちて居たので其れを拾つて龜を作つた。「先生僕にも」「わたしにげじく」と片手に持ち切れない程拾つて持つて来る。「じや一緒に作りませう」とやさしいげじくの方を教へる。榮一さんと雄さんは二度ばかりですつかり分つたらしく一人で作つて居た。まだ枯れて居ないので曲けても折れず、色も青々ときれいで工合がよい。龜作りに忙しくしてお辨當が一番おそくなつてしまつた。お机全部を一つにして中央に花を置きぐるりに坐つて御辨當を頂いた。

食後はあまり風がひどく、莫塵も飛ばされてしまふのでお室の中でお家ごつこをする。此頃女の方は一團になつて毎日お家ごつこを續けて居る。先學期中かゝつて一生懸命作つた一人に一つづつのお人形を抱いて、お寝かししたり、洋服をぬがしたり、靴をはかしたり、哲子さん等御半ケチが無いと思つたらいつの間にかお人形さんがちやんと前に下げて居た時もある。今日は裕さんが赤ちやんであの大き

どぶんと云つてね。僕の顔に水がかゝつたよ」と云つた。

五月二十七日（金）

今日は海軍記念日である。宗久、榮一、和雄、裕さんにポールドに海の畫を書いていたとく、二人づつ共同して長さ一間位の大きな軍艦を二隻上には水兵さんが軍艦旗に敬禮をして居る所を書いた。和雄、榮一さんの畫はいつも線がはつきりと力強く書かれて居る。次に「皆も軍艦を一隻づつ作りませう」と云ふと男の方は「僕、陸奥」「僕、長門」「僕も長門」と口々に言ひ出すが女の方は興味ないのでかたまつて聞いて居た。粘土で作る豫定で居たが、粘土は作るのはた易いがちきこれるので何か適當な物はないかと考へて居た所、丁度自動車作りで木切れが澤山出来たので之れを利用して作る事にする。

雲一つない絶好の日和。早速お机を藤棚の下に持ち出して鋸、金槌、木切れも外に運び出し軍艦作りが始つた。木屑の箱の中から丁度よさ相な木切を探しては一生懸命トン／＼と打つた。釘を打つ事に大分慣れたので、少しお手傳ひするだけで、大概一人で出来る。長さ七八寸、巾三寸位の

な體でアーン、アーンと泣いて居る。美喜子さんがお姉さん「まあ／＼赤ちやんどうしたの、そんなに泣くものじやありませんよ」と大人の様な聲を出してなだめて居る。私もお客様に行く、暫くすると睦子さんと哲子さんが狙の取り合ひを始めて兩方共險悪なお天氣になつて來たので「さあ小母さんが一つお話しして上げませう」と云ふと二人も狙をほうり出して來た。お客様ごつこをして居なかつた連中も奥座の上に乗つて圓く座つた。芥子粒夫人をする。高麗鼠が鼠に飽きて魔法使のお婆さんに頼んで色々の動物に變へて貰ふ、最後に御姫様になつて王子様のお友達になつて楽しく暮す中、或日お庭で鼠に會つたがそれは自分のお母さん達であつた、王子様に鼠だといふ事を見破られたので困つて逃げる時お池に落ちてしまつた。次の年其の池の廻りには御姫様のお洋服にも似た真紅な花が一面に咲いた。人々はそれを「けしの花」と呼んだ。といふ筋である。もう一つといふので森の時計をした。博太郎さんはお話の面白い所では實に朗に笑つた。森の時計の裏の目に入れたお月様のかげから思ひ付いたらしく、孝さんが「先生、僕お月様の海に落ちたの見たよ」「そう、どこで」「田舎の海で

板の上に、巾丈共に少し狭いのを重ねて、上に小さい木切れでマスト、煙突、大砲等をつけるともう立派な軍艦が出来上つた。早速傍の砂場に浮べて遊んで居た。マストや大砲の細い部分はお菓子空箱も細く割つて使ふと、釘も打ち易く又切り易くて工合がよい。出来たのは自動車に用ひたラツカーの残りを用ひて上の方を黒、下を僅か赤色で塗り、お机の上に水色の色紙を張つて、其の上に浮べた。實に壯觀だ。子供も非常な満足である。此の時庭の方を小學校の方が樂隊をしながら行進して來た。「ヤア樂隊だあ」と皆大喜びで見に行く、小學校全部の方が手に／＼日の丸の旗を振りながら、一煙も見えず、雲もなく」と樂隊に合せての行進、本當に勇しい。子供達は手に軍艦を持つたまゝおぼつかない口調で一緒に唱ひながら後に續いて行く。小學校のお庭で堀先生の發聲で萬歳々々と三唱して分れた。お兄様方に旗をいたゞいたりして大喜びで歸つて來た。

女の方は先に男の方が軍艦作りをしたので其の間お砂場で賣り屋さんごつこを始めて居た、臺の上にお饅頭をずらりと並べたり、木の葉を澤山拾ひ集めてお皿にして芥子の花瓣を乗せて御馳走にしたりしてよく遊んだ。午前中は軍

艦作りで本當に忙しく過してしまつた。お食中の時は軍艦の所にお机を使つたので、二列にお机を並べて兩側に坐らなければ足りなかつた。「汽車の食堂の様ね」と百合子さんが言つて居た。食後はお天氣がよいので砂場とジャングルジムで元氣に遊ぶ。和盛さんと宗久さん、積木を重ねてお家の様なのを作つて、さつきの軍艦を澤山並べて居る。「まあ澤山並びましたね」と云ふと、「これ軍艦の車庫だよ」と宗久さんは澄したものだ。「宗久さん軍艦の這入つて居る所はドックぢやない」「うん、そうだ、ドックだ、自動車や電車は車庫だね」「おーい、これは今度車庫ぢやないよドックだよ」「こゝは海さ」と相變らず大きな聲で指揮して居る。此の子は自轉車で足を怪我して二十日程お休みであつたが、幸ひ骨もどうもならずこんなに元氣で本當によかつたと思ふ。

お室にはいつてから軍艦マーチを二回唱つて歸る。

五月二十九日（土）

昭雄さんがお家から金魚を澤山持つて來て下さつたのでお庭のお池に放つた。「僕の家ね、あさつて引越すの、今

度のお家ね、お池が無いから幼稚園にあげるの」と、いつも朝はしぶくお母様を離れる昭雄さんが今日は大元氣だつた。

木曜日に色だけ塗つて置いた牧場の羊を、めいめいお引出しから出して切り抜く。次に牧場の柵を畫用紙に書いて切り抜いた。牧場の柵といふものが都會の子供には親しみが少ないので描きにくいらしく、大概お手を模倣して居るに過ぎなかつた。今日は此の外にお庭に行つて芥子の花を見て書き、切り抜いて、羊や柵と一緒にお菓子のお箱の蓋の上に立たせる豫定であつたが、羊を六匹切り抜いたので疲れたらしく見えたから、お花や木を切る事と立てる事は月曜日のお仕事にした。出来た方は袋に入れてお名前を書いて置く。自動車の内側と中のお椅子がまだ塗れて居ないので今日はカゼインのクリーム色で女の方に塗つて貰ふ。

此の間「男の方ばかりに塗らして」と大不服であつた美喜子さん百合子さん大喜び、「あー嬉しい」とお椅子と運轉臺を外に持ち出して塗る。ラツカーの様に仕末が悪くないので樂に塗れる。塗る方を實習科の方に見ていたゞいて、私は四五人の男の方とハンドルを作りにミシ鋸のお室に行

く。お盆の古いのを利用してハンドルの型にミシン鋸で切り抜いた。軽いゴシゴシといふ音を立ててお盆がハンドルに變るべく切られて行くのを子供達は面白相に見て居た。切れたのを黒い色に塗り、丸い心棒を通し、自動車に取りつけたら、立派なハンドルになつた。塗り屋さんの方も出来上つたので皆で後作る物の御相談を始める。

「さあ、ハンドルもライトもクツションも出来ましたね。

後何を作りませうか。皆で考へて書いて見ませうね」と云ふと、眞先きに國義さんが。

「後につけるタイヤ」といふ。

「番號札」

「泥除けもないとお巡りさんに叱られるよ」と孝さんが言ひ出す、次々と子供の言ふ物をボードに書いて見た。

「中に飾る花瓶とお花」

「後に下げるお人形」が女の方から出る。

「ラツパ」

「前につける旗」

「ガソリン入れる所」

「後の燈」等々澤山に出て来る。よし千ちゃんが靜に「乗る

所にお家の紋が付いてるわね」と云へば榮一さんが大きな聲で。

「それからガソリンポンプ」と云ふと、裕さんが

「うんそうだ〜ガソリンが無くちやねー」と如何にもよい思ひ付きだと言つた風に、榮一さんに顔を向けて、にこ〜と笑つた。すると喜久子ちゃんが、

「ガソリンガールにあたしなるわ」といつたので皆「ワア〜」と大笑ひした。

「もう無いかしら」「睦子さんが」

「先生、ゴーストツプも欲しいわ」と言ふ。

「僕其のお巡りさん」と孝さんが勢ひよく立ち出ると「僕も」「僕も」と忽ちお巡りさんの志願者が澤山に出来てしまつた。

「それじゃ來週はこういふの作りませうね」と賑やかな御相談會を閉じて、昨日作つた軍艦を大事相に持つてお歸りにした。

今週は自動車作りに忙しくて、お話、唱歌等をする機會をつひ失つてしまつた。來週は此理合せをしなければならぬ。但し觀察整理は自動車遊びで大分出来たかと思ふ。

帝國教育會主催

保育夏期講習會

帝國教育會にては從來より諸種の有益なる講習を催せられておましたが、本年より新たに幼児保育の講習をも開催せられることになり斯界のため喜びにたえません。

一、期 日 七月二十八日より同三十一日まで四日間、毎日午前八時より正午まで

一、會 場 帝國教育館講堂
(神田區一ツ橋通り)

一、講 師

(一) 幼兒 保 育 文部省督務官 森岡常藏君

(二) 保 育 法 總 論 東京女子高等師範學校 倉橋惣三君
教授 附屬幼稚園主事

(三) 幼稚園と小學校 東京女子高等師範學校 堀 七藏君
教授 附屬小學校主事

一、會 費 金 參 圓

一、申 込 七月二十五日迄